

その3 磯島

(平成4年7月15日号—第159号)

枚方には渚のように水に関係した地名がいくつかあります。上島・下島・磯島は、「島」という字が示すように、昔は淀川の川中島でした。上島は船橋川が、下島は穂谷川が、磯島は天野川が、それぞれ淀川へ流れ込むところに土砂が堆積してできた島と思われます。

ところで、今回、磯島の歴史をひもといてみて意外な事実がわかりました。それは、磯島村が明治7年に河内国交野郡に組みかえられる前は、高槻側の摂津国の村であったということです。摂津国であったことは、磯島元町にある八幡神社の古い鳥居に刻まれた文字「摂津国嶋上郡磯島村」からも明らかです。この鳥居は、寛保[かんぼう]3年(1743)に建立されているので、おそらく、それよりもずっと以前、淀川が現在よりも東南の地を流れていた時代に、川中島が磯島村となり、村自体が枚方から離れていたため、摂津国に属していたのではないのでしょうか。



3 八幡神社(磯島元町)



4 八幡神社鳥居

『枚方市史』によれば、磯島の村人が正徳[しょうとく]年間(1711~6)に摂津国嶋上郡の高槻城下へ野菜を売りに出かけたとあります。このように磯島村は淀川を挟んではいましたが、高槻側とも交流が深く、当時180間(約325メートル)あった淀川を渡し舟を使って行き来したことがうかがえます。

現在の磯島周辺は、府道京都守口線や京阪電車が走り、その沿道には事業所や住宅などが建ち並んでいます。しかし、府道京都守口線から淀川に向かって小道を歩くと歴史を刻む家もあり、旧村のたたずまいを見せてくれます。

淀川の堤防は高く、磯島から高槻側を眺めることはできませんが、ここが川中島だったことを思いながら八幡神社にその面影を探してみてもはどうでしょうか。